令和４年度　日南市立油津中学校　学校だより　　令和４年５月１７日発行（文責:校長）

梅ケ浜

「今日が楽しく明日が待たれる学校」

花の命は･･･しかしその後に

桜やツツジなど春の花々の時期に雨が多く風も吹いたようなイメージがあり、学校から見上げる津ノ峰は若葉に覆われ、早期水稲も随分しっかりと伸びてきている時期を迎えました。花が散りゆくのは悲しいものですが、その後を引き継ぐ新芽から若葉の時期は、活力に溢れ精気にみなぎる若々しさに満ち溢れています。いよいよ秋の実りに向けた生命の活動が、力強く行われ始めていることを感じます。学校でもゴールデンウイークも終わり、本格的に学習の時期がやってきました。１年生も入学から１か月が過ぎ、同じく進級した２・３年生と一緒になって、活気で溢れてきています。

ないことを嘆くより、あるもので発想する

人生は、思い通りにならないことの方が断然多いですね。

先日書棚を見て再度手に取っている本があります。斎藤茂吉のご子息で医師であった斎藤茂太さんの『いい言葉はいい人生をつくる(成美文庫)』です。一節を紹介します。

> 最近、私の病院を訪れる患者さんの中に「欲しいものは必ず手に入る」と信じ込んでおり、手に入らないと「相手が悪い」「社会が悪い」と攻撃するケースが増えている。社会問題の一つにもなっているドメスティック・バイオレンスの原因も、多くは欲求をコントロールできないイライラの爆発である。（中略）
>
> 思いどおりにいかないからこそ、他の方法はないかと工夫を凝らすのだし、その場は思いとどまる抑制の訓練もできる。工夫や抑制の結果、望みを叶える好機に出会い、一気に願望が実現するそのうれしさといったら･･････。
>
> われわれの子ども時代は、いくらほしがったところで、モノがなかった。だから、手元にあるものに自分なりに手を加えたり、想像力を羽ばたかせて遊んだものだ。笹舟をつくって川に流して競争したり、川原で石投げをして遊んだりした。女の子は笹の芽を編んで食器にし、アカマンマの芽を摘んで赤飯に見立てて遊ぶなど、今考えると何とゆかしい遊びだったろう。･････(後略)

私の育った時代も、引用の部分にあるような遊びに近いものでした。欲しいものがあって父や母にお願いしても、はいはいと買ってもらえるはずもなく、いろいろと見立てたり工夫したりして遊んでいました。そんな中で自然と知恵がつき、遊びや工夫の幅が広がったことを覚えています。もちろん、令和の現代と、昭和の時代を単純に比較することは無理があると思っていますが。

しかし、自分の思い通りにならずにキレたり全てお膳立てが揃ってないと「〇〇がないからできない」といって投げ出したりする人が多いような気がします。堪力や工夫が足りないことも一因ではないかと思います。「必要は発明の母」（トーマス・エジソン）。子どもにとって何が必要なのか、何を大切にして育ってほしいのかを再度見直してほしいと思います。スーパーでだだをこねる子どもと、それを必死になだめるお母さんの姿を見るたびに「かんばれお母さん」と心密かに応援しています。

先日、「プログラミングで全国Ｖの１０歳」が新聞で取り上げられていました。私は見出しを読んで、「ゲーム好きな小学生なんだろう」と思っていました。しかし記事を読むと、真逆のお子さんでした。大分市の山あいの集落に暮らし、全校児童４０人余の小さな小学校に通う女の子が、昨年１２月に行われたプログラミングの全国大会「テックキッズグランプリ」で優勝したのです。彼女の自宅は田畑あわせて６００坪で、田植え稲刈りを手伝い、塾に行ったことはありません。ゲーム機も持っていませんでした。せがまれても買い与えなかった父親が偶然見つけたのがプログラミング教室で、「行ったら、きっとゲーム作れるけん」と父に勧められ、小３で通い始めました。「教科書に点字を考案した人が載っていた。手話のイベントに参加して興味を持った。障害のある人と交流できないか。」と考えついたのが、スマホのカメラ機能を使った「手話の同時通訳アプリ」だったそうです。指で書いた文字を静止画で認識するとともに、点字も翻訳するアプリを３カ月ほどで開発しました。審査では社会的課題を解決しようとする姿勢が評価されたそうです。毎日つけている日記で文章力を鍛え、プレゼンの原稿も何度も推敲したそうです。緊張することなく発表することができたのは、この積み重ねがあったからでしょう。

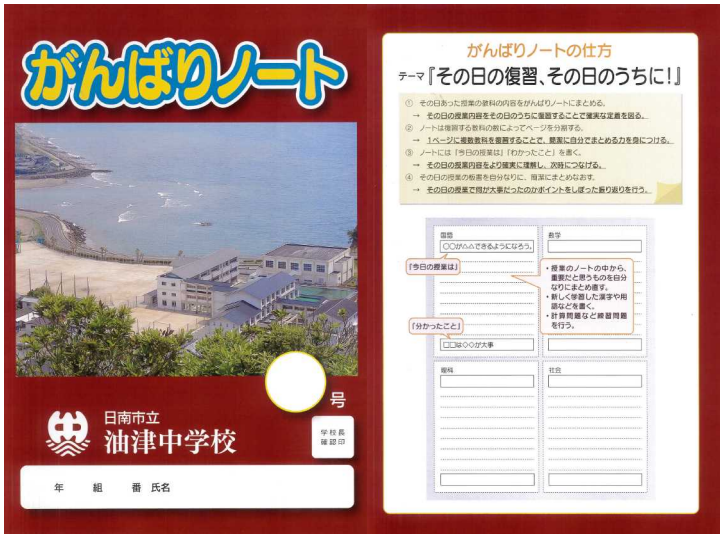
～最も欲望の少ない者が最も豊かな者である～

プブリリウス・シルス　（紀元前１世紀・古代ローマの喜劇作家・詩人）

がんばりノート～油中サイクル

冒頭で、本格的に学校生活が始まりました、と書きました。３年生は約８か月後の高校入試に向け、２年生は中学校生活で最も大事な中堅学年としての学び、１年生は中学校の学びのスタートとして、毎日学校生活を送っています。その中でも、授業と家庭学習のサイクルを定着させることが大切になってきます。油津中学校では、平成２７年度の研究公開指定を受けてから、授業と家庭学習を連携させた取り組みをしています。（左図参照）

学力向上のカギは、教師の授業改善はもちろん、生徒の学習習慣の定着が不可欠です。授業では、「主体的・対話的で深い学び」となるように、昨年度全国的に整備されたタブレットＰＣを授業に導入しています。しかしこれは道具です。タブレットの使い方を学習しているのではありません。学習事項を定着させるためにも、授業中の取組はもちろん、「がんばりノート」をしっかり活用しましょう。



４月以降、「がんばりノートが終わったので、新しいノートをもらいに来ました」と、校長室を訪れる生徒が多くいます。とても嬉しく思い、「頑張りましたね」と声を掛けながら新しいノートを手交します。「未来の自分をつくるのは今の自分」と古いノートに書いて、やり遂げたことを賞賛するようにしています。

「その日の復習、その日のうちに」のテーマのもと、皆良く取り組んでいます。あとは、内容の充実です。授業のノートと見比べながら、頭の中がしっかり整理された「がんばりノート」だと、学びの確認やテスト前にも効果的に使えますね。

継続は力なり。ノートの名前のごとく、自分に負けず頑張ってほしいです。

「主体的・対話的で深い学び」の実現は、授業をする教師にだけ求められているのではなく、学習者である生徒にも求められています。

授業では、右の表のような力が発揮できるように問いやノート指導、話合い活動等が盛り込まれていきます。

先日、宮崎県の県立学校での朝課外が報道されていました。やめる学校が多いようです。知識一辺倒では太刀打ちできないことが、この表からも分かります。

授業が勝負です。自分の目標に向けて頑張ってほしいです。

【学習者に求められる主体的・対話的で深い学び】

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
● 学ぶことに興味や関心を持つ ● 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける ● 見通しをもつ ● 粘り強く取り組む ● 自己の学習活動を振り返って次につなげる 	● 子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める ● 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ● 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ● 先哲の考え方を手掛かりに考える	● 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる ● 知識を相互に関連付けてより深く理解する ● 情報を精査して考えを形成する ● 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

（国立教育政策研究所）

＜６月の主な行事＞

11	土	南那珂地区中学校総合体育大会①
12	日	南那珂地区中学校総合体育大会②
15	水	読み聞かせ読書
16	木	高校説明会（３年）
17	金	南那珂地区中学校総合体育大会陸上競技
20	月	プール開き
22	水	校長会テスト（３年）①
23	木	校長会テスト（３年）②
29	水	第１回定期テスト①
30	木	第１回定期テスト②

◆　緊急連絡体制として、本年度も「マチコミメール」を活用します。登録がお済みでないご家庭は、登録をお願いします。ご不明な方は、学校へお問い合わせください。

◆　いつ梅雨入り宣言が出されてもおかしくない天候で、蒸し暑い日が出てきます。同時に新型コロナウイルス感染症の勢いも止まりません。ご家庭でも、感染症と熱中症の予防にご留意ください。